

十勝岳における流木対策の取組 ～流域流木対策による治山事業との連携～

◆流域の概要

- 十勝岳(標高2077m)は、北海道のほぼ中央にあり、十勝岳連峰の中心に位置する活火山です。
- 昭和63年12月に26年ぶりに噴火し、気象庁の常時観測火山に指定されており、ここ数年、火口浅部の膨張を示す地殻変動が局所的に確認されるなど、近い将来噴火してもおかしくない火山です。
- 十勝岳山腹部には、白金温泉や青い池等の観光施設が点在し、十勝岳連峰を源とする美瑛川の下流には、美瑛町市街地(人口約9,800人)が広がっています。年間約240万人の観光客が訪れ、約23万人が宿泊(R1時点)する美瑛町は、近隣の富良野市と共に北海道を代表する観光地として知られており、北海道外からの移住者も多い町です。



◆過去の災害実績と災害発生の危険度

- 十勝岳では、30～40年周期で噴火を繰り返しており、前回噴火から34年が経過しています。
- 昭和63年(1988)に小規模な水蒸気爆発および融雪型火山泥流が発生し、白金地区住民の避難命令は4ヶ月間に及びました。
- 近年も山体浅部の膨張、火山性微動の発生、発光現象等が確認されており、火山活動は活発化しています。
- 大正15年には融雪型火山泥流に伴い発生した流木が上富良野市街地まで到達しており、泥流流下時には流木被害発生のおそれがあります。



◆【石狩川上流(十勝岳)流木対策検討委員会の設置

- また、近年の土石流に伴う流木災害が全国的に拡大しています。
- 以上のことから、十勝岳で想定される融雪型火山泥流にともなう、流木対策について技術的な助言を行う「石狩川上流(十勝岳)流木対策検討委員会」を開催し、助言を踏まえて、流木対策の検討を行っています。
- 主な議論
 - ① 流木の発生・流出特性
 - ② 流木による被害想定手法
 - ③ 流木対策の考え方

◆流域流木対策の取り組み

- 石狩川水系美瑛川では、令和4年度から直轄砂防と治山事業が連携して効率的に流木対策を実施する全国初のモデル地区になりました。
- 流域流木対策の取組とは、各流域において想定される発生流木量及び流木対策整備量を計画段階で調整し、各々が流木対策を実施していくものです。
- 林野事業と砂防事業が連携してそれぞれの事業を一体的に実施することで、効率的に対象流域における流木被害を防止・軽減していきます。

